

私たちの留学体験記

その他のタイトル	Unsere Erlebnisse in Deutschland
著者	川上 周子
雑誌名	独逸文學
巻	65
ページ	183-184
発行年	2021-03-20
URL	http://doi.org/10.32286/00023422

[私たちの留学体験記]

川上 周子：エアランゲンでの生活

私は2018年の秋学期から1年間、ドイツ南部バイエルン州にあるエアランゲン・ニュルンベルク大学に交換派遣留学をしました。大学生活4年間で日本だけで過ごすのはもったいないと思い、1年間の留学を決意しました。エアランゲンの街を選んだ理由は、大学に日本語学科がある、都会でないこと、そして旅行に行きやすいという点です。街中にキャンパスがあり、学生も多くとても住みやすい街でした。

ドイツには2人の姉と一緒にいき、エアランゲンまでついて来てもらいました。ドイツの電車のチケット購入方法がわからず、一苦勞でした。また2人は旅行気分だったのですが、私は寮に入る日が近づくにつれ憂鬱になっていました。そのこともあり、日本で両替することを忘れ、2週間現金を持ち合わせていませんでした。バスだと8分の距離に乗れず、駅まで片道40分を歩いていました。しかし、見慣れない美しいヨーロッパの風景が新鮮で全く苦になりませんでした。寮はインド人と韓国人と私の3人でのWGでした。韓国人留学生とは入寮日が同じでIKEAへ買い物に行ったり、料理ができなかった私にご飯を作ってくれたり、大学まで一緒に行ったりと、とても心の支えとなりドイツでの生活が楽しくなりました。

旅行先で訪れたベルリンでは、年越しを盛大に祝いました。ブランデンブルク門の前では、約6時間前から大勢の人が集まり、ミュージックフェスが開催されており音楽を聴きながら年明けまで待機していました。身動きが取れずとても寒く、辛かったのを今でも思い出します。そしてブランデンブルク門はカラフルな色に変わり、年越しの際には数分間にもわたる花火が打ち上げられました。とてもきれいな花火で、疲れが少し取れた気がしました。街中に出ると、あちこちで個人が花火を打ち上げており、前が見えないほど煙が立っていました。道には花火のごみが散らばっており、日本では考えられない光景で呆然としました。花火が原因で家の窓ガラスが割れ、消防隊が出動していました。ホテルに帰るのも一苦勞で、どこの道にもゴミがあり、さらに朝方まで花火の音

が聞こえていました。日本では考えられない年越しを体験でき、とても思い出深い新年を過ごすことができました。

授業ではドイツ語がなかなか上手に話せず、落ち込む日々でした。タンデムパートナーも決まり一緒に勉強していましたが、2人の仲はあまり深まらず冬学期が終わりました。冬休みに家族や友達がドイツに遊びにきてくれました。しかし、その時に私のドイツ語が役に立たずとても落胆しました。このままではいけないと思い、タンデムパートナーにもっと勉強する時間を増やしたいと頼みました。そして図書館で課題をこなしたり、カフェ巡りをしたり、お祭りや食事に行く機会も増え、ほとんど毎日交流をしていました。土曜日には彼女のホームパーティーに行き、朝方までゲームをし、お酒を飲んでいました。こんなに仲が良くなるとは思っていなかったのも、自分から声を掛けてよかったと思います。

語学力の向上はもちろん、留学で出会った人や街、出来事のすべてが私のかげがえのない宝物です。ドイツで過ごした1年間で、私の人生の中で一番輝いた時間であったと思います。